



## Windomの解答速報 東海大学(医)英語



### 【解答と予想配点】

合計 150 点

#### 1 小計 28 点

問 1 ア 問 2 エ 問 3 エ 問 4 ウ 問 5 イ 問 6 エ 問 7 ウ 問 8 ウ 問 9  
ア [18 点(各 2 点×9)]

問 10 1. F 2. F 3. T 4. T 5. F [10 点(各 2 点×5)]

#### 2 小計 20 点(各 2 点×10)

1. イ 2. イ 3. エ 4. ウ 5. エ 6. ウ 7. エ 8. エ 9. イ 10. エ

#### 3 小計 20 点(各 2 点×10)

1. ウ 2. イ 3. イ 4. イ 5. ア 6. ア 7. エ 8. ウ 9. エ 10. ウ

#### 4 小計 16 点(各 2 点×8)

1. ア 2. イ 3. イ 4. エ 5. ア 6. ア 7. ウ 8. イ

#### 5 小計 12 点(各 3 点×4)

問 1 イ 問 2 ア 問 3 ア 問 4 ア

#### 6 小計 12 点(各 3 点×4)

(1) イ (2) ウ (3) ウ (4) イ

#### 7 小計 21 点

- (1) 世界遺産委員会は、文化あるいは自然保護の観点から極めて重要な場所を特定し、保存することを勧めている。
- (2) 小笠原諸島は、非常に独特で珍しい生態学的・生物学的な進化過程に関する当委員会の基準を満たしている。

#### 8 小計 21 点

- (1) The first Shinkansen used in Tokaido route was introduced as a symbol of economic growth and development in Japan in 1964.
- (2) Since then, the Shinkansen has been developing and expanding , and (has) become one of the most comfortable vehicles.

## 総評

例年通りの出題形式で、難易度もさほど変化がない。合格最低ラインは8割であろう。

### 各論的講評

#### 1

「生物多様性」に関する問題は、『自習用教材』で扱っている。「熱帯雨林の森林破壊」の問題については1学期の『テーマ別読解』で取り上げている。その意味では、これらの背景知識を前提に読みやすい英文であったであろう。

【テーマ】 生物多様性の喪失による食料安全保障への懸念

#### 【解法】

問1 第2段第3文が根拠。逆接マーカーの **However** の後に重要情報が置かれる。

問2 第2段最終文が根拠。エ. **be yet to do** 「まだ～していない」

問3 第3段落全体の論旨は、種の多様性がなくなることで、疫病や害虫により食料安全保障が大きな影響を受けることを懸念していることにある。ウは種の多様性「に関する政策」であるが、同段ではそれを積極的に論じているとは言い難い。むしろ、多様性があることで、食料安全保障を確保しやすくなることを一般的に述べているに過ぎない。したがって、解答はエの生物多様性「の利益」である。

問4 「食料安全保障に対するリスクは、ごく僅かな種類の米がアジアで使われていることである」 第3段全体、特に最終文で、「人間が消費する食料が多様であればあるほど、限られた数の作物に過度に依存することから生まれる飢餓や諸困難に直面することがなくなるだろう」と述べられていることに一致する。

問5 「地球温暖化は食料の安全性を損なう」 第4段では、地球温暖化による植生の変化がそれを食べる動物にも影響し、それにより動植物が死滅してその多様性が失われることで、最終的に人間の食料の安全が下方スパイラルに陥ることが述べられている。

問6 下線部を含む同段第2文の前半にある **certain species** と **others** とが、対比的に用いられていることを参考にする。

問7 空所の直後の **Novocaine**(ノボカイン[局所麻酔薬])は熱帯雨林に起源をもつ薬の具体例である。固有名詞は具体化の指標であることを考える。

問8 空所が最終段落の冒頭にあることを考える。ここでは結論を導く **In the end** 「結局[つまることろ]」というディスコースマーカーが入る。

問9 テキスト全体として何を言いたいのかを考えることが重要である。ただ、受験テクニックとしては、第1段第1文のトピックセンテンスにあるキーワードである **biodiversity** に着目することが重要である。この語が含まれていてもエは「神話」とあるので不可。むしろ、生物多様性の「重要性」を論じた文章である。

#### 問10

1. 「100種類の植物しかその医療的特性に関して検証されていない」 第2段第4文意一致しない。
2. 「世界的に10種類のうち1つの種がこの先10年で失われるだろう」 **worldwide** がキズ。第1段第6文では、**tropical forests** と限定している。
3. 「ノボカインは1世紀以上前のものである」 第2段第6文の内容に一致する。

4. 「熱帯雨林を焼き尽くすと食料の安全に影響する」 熱帯雨林の伐採→地球温暖化 [気候変動]→動植物の多様性の喪失→食料安全の負の連鎖という第4断然体の議論に一致する。
5. 「世界的な食糧安全の負の連鎖は1世紀以上前に起こった」 第4段第6文で「人類の食料安全の危険な負の連鎖が起こりえるだろう」とある。ここで用いられている **could** は仮定法過去で、直説法過去ではない。

2

1. 空所部分は過去完了形が本来望ましいが、**before** や **after** を前置詞や接続詞で用いる場合には、時間的前後関係が明確になるため、過去形で代用することができる。
2. 主語は **The only excuse** であり、単数扱いである。**that** から **actions** までは関係代名詞節。
3. 否定文の付加疑問文は肯定形になる。
4. **unless** ~: もし~でなければ
5. 再帰代名詞は主語と同一のものが目的語にくる場合に用いる。主語は **we** なので **ourselves** が解答になる。
6. 言ったときにはすでに勝利を収めているので過去完了形にする。
7. **deer** は単複同形。前に **a** がないので、ここでは複数形である。
8. 仮定法過去の帰結節には助動詞の過去形が必要である。
9. 11時30分よりも前ならば何時でも
10. **go into production**: 生産が始まる。

3

1. 病気
2. きず
3. **well off**: 裕福な, **badly off**: 貧しい, 比較級はそれぞれ, **better off**, **worse off** となる
4. 予期されている
5. 参加する
6. (気持ちを)伝える
7. 事実上
8. 見たところ
9. **speak/think/make + highly/much + of** ~: ~を重んじる  
**speak/think/make + little + of** ~: ~を軽んじる
10. **compensate for** ~ = **make up for** ~ = **make amends for** ~ : ~の埋め合わせをする

4

1. **John** の最初のセリフで、「このジムの建物」と記述あり。
2. **Sally** の最初のセリフと **John** の二番目のセリフから。

3. miss ~ : ~がなくなったら寂しいと思う
4. state-of-the-art : 最新式の
5. 最後のセリフを見れば, woman は, 挨拶状に何を書くべきかを考えている, ということがわかる。
6. 強調構文で「大事なのは, 何を書くべきかではなく, 祝う気持ちの方なのだよ」という意味。
7. be there : 力になってあげる
8. 最初の man のセリフで little Sally とあり, woman の二番目のセリフで Sally is turning one month old tomorrow とあるので, 新生児がめでたく誕生一か月を迎えたのを祝う挨拶状。

5

- 問 1. まず 1 の **Consequently** に着目すると 2→1 が連続することがわかり, イとウに絞る。そして, イとウの選択肢を利用して, 4 の位置をどこに置くべきかを考える。
- 問 2. まず 3 の **Yet** と 4 の **that** に着目。「会ったことがない, と彼は言っていたが, 彼の顔はよく知っている」という流れになるので, 1→4→3 となり, 答えが決まる。
- 問 3. まずは 2 の **however** と **it** に着目すると, **it** は計算機を指し, 3→2 が連続することがわかり, 選択肢をみるとアに決まる。
- 問 4. まずは 4 の **those ice crystals** に着目すると, 4 の前に 3 がくることが決まる。選択肢の中で 4 の前に 3 がくるものはアしかないので, 答えが決まる。

6

- (1) volumes : 量 (2) 1970s の間に減少してきているものは, industrial use (3) municipal use の量が一番多くなった年 (4) グラフから 2010 年の agriculture use の量は 1987 年の municipal use の量よりも少ないことがわかる。

7

小計 21 点

【解法】

- (1) 世界遺産委員会は, 文化あるいは自然保護の観点から極めて重要な場所を特定し, 保存することを勧めている。

[基準] 10 点[①②③⑥⑦⑧各 1 点 ④⑤各 2 点]

- ① NP1 encourages NP2 : 「NP1 は NP2 を勧めている」 encourages は「奨励する」などでも可。
- ② NP1 = The committee : 「世界遺産委員会」 たんに「委員会」でも可。
- ③ NP2 = the NP3 of places RC1 : 「RC1 する場所の NP3」
- ④ NP3 = identification and preservation : 「特定と保存」 identification は「確認」, preservation は「保全」でも可。
- ⑤ RC1 = that are of X Y or Z importance : 「X で Y あるいは Z で重要な」 of

importance 「重要な」という名詞構文がとれていることがポイント。

- ⑥ X = outstanding : 「際立った」
- ⑦ Y = cultural : 「文化的な」
- ⑧ Z = natural : 「自然的な」 解答例では、文脈から「自然保護の」と意識した。直訳でも可。

- (2) 小笠原諸島は、非常に独特で珍しい生態学的・生物学的な進化過程に関する当委員会の基準を満たしている。

[基準] 11点[①④⑦各1点 ②③⑤⑥各2点]

- ① NP1 meet NP2 : 「NP1 は NP2 を満たしている」
- ② NP1 = they : 「小笠原諸島」
- ③ NP2 = the committee's criteria of NP3 : 「NP3 の委員会の基準」
- ④ NP3 = a very X Y Z process : 「非常に X で Y な Z の過程」
- ⑤ X = unique and rare : 「独特で珍しい」
- ⑥ Y = ecological and biological : 「生態学的そして生物学的な」
- ⑦ Z = evolutionary : 「進化の」

\* NP = 名詞句(Noun Phrase)

RC = 関係詞節(Relative Clause)

X, Y, Z = 任意の語句

8 小計 21 点

- (1) [基準] 11点[①3点 ②③⑤各2点 ④⑥各1点]

- ① 「東海道ルートに使用された」: used in Tokaido route 後置修飾の分詞句ではなく、that was used in Tokaido route という関係詞節で表しても可。
- ② 「最初の新幹線」: The first Shinkansen 定冠詞がない解答は1点減点。
- ③ 「導入された」: was introduced 現在形で書くなどの時制の間違いは1点減点。
- ④ 「～の象徴として」: as a symbol of
- ⑤ 「日本の経済成長と発展」: economic growth and development in Japan 「経済成長と発展」は growth and development[progress, evolution, rise] in[of] economy などでも可。
- ⑥ 「1964年に」: in 1964

- (2) [基準] 10点[①②⑤⑦各1点 ③④⑥各2点]

- ① 「それ以来」: Since then from that time on や from then on などでも可。
- ② 「新幹線は」 the Shinkansen
- ③ 「進化し、拡張し続け」: has been developing and expanding 「続け」は現在完了進行形で表す。時制の間違いは1点減点。
- ④ 「～となっている」: and (has) become 現在完了形でない解答は1点減点。
- ⑤ 「～の1つ」: one of
- ⑥ 「最も快適な乗り物」: the most comfortable 最上級で書かれていない解答は1点減点。
- ⑦ 「乗り物」: vehicles conveyances でも可。

## 総括

本年度の東海大医学部の問題でも私たちがやって来たことが正しいことが証明された。つまり、医療系英文を読むための背景知識をつけること、そして設問を解くための選択肢の判定技術と下線部和訳の添削作業である。

特に、私たちは1学期から授業はもちろんのこと、授業外でもオリジナルの『自習用英文読解教材』を配布し、その添削に努めてきた。また、2学期には設問の解法を学ぶべく、「客観問題の解法」と「記述問題の解法」について授業で扱うだけではなく、それらをより実戦的に生かすべく授業内での「実践演習」を行い、それも全ての生徒に対して添削で指導してきた。英作文もまた然りである。

WINDOM 在籍生の合格が期待できるゆえんである。